

ねらい

東京2020オリンピック・パラリンピックに出場する国・地域についてくわしく調べる活動を通して、他者理解の大切さに気付くことができる。

導入

学習活動

▶ 予想される児童の反応

国際大会で日本の代表チームや選手を応援する様子を見て、感じたことや思ったことを交流する。

(実際に競技の観戦経験があれば、その様子から想起させたり、2019年ラグビーW杯で見られた「他国の国歌・ラグビーアンセムを歌う」といった事例を取り上げて考えさせるなど、多様な活動が考えられる)

- ▶ みんなの応援で、選手ががんばれると思う。
- ▶ 相手の選手はどう感じるのだろうか。
- ▶ 他国・地域の選手も頑張っているから、良いプレーに拍手したり、応援したりしたい。

□ 指導上の留意点

- 日本の選手ばかりでなく、他国・地域の選手について考えられるようにする。
- 試合をするためには相手が必要であることを話し、相手の選手も同じように努力してきたことに気が付けるようにする。

展開

日本の応援動画を見る。

- ▶ サッカーやバレーボールの試合でこの応援をしているのを見たことがある。
- ▶ 他の国・地域にも同じように応援があるのかな。

【例】「ボリビア」を調べてみよう
ボリビアの応援動画を見て、他国にも独特な応援の方法があることを知る。

- ▶ 日本とは全然違うね。
- ▶ 簡単だから覚えられそう。
- ▶ ボリビアの有名な選手はいるのかな。

ボリビアの位置や観光名所などの基本的な情報を知ったり、日本との関わりや興味をもったことについて調べたりする。

- ▶ 日本からこんなに遠く離れているんだね。
- ▶ ウユニ塩湖きれいだね。行ってみたい。
- ▶ 日本人が多く住んでいる場所があるんだって。

- NHK「世界を応援しよう!」のWEBサイトで一覧を見せることで、多くの国・地域に独自の応援方法があることに気付かせるようにする。
- 学校や児童の実態に応じて、児童が積極的に調べ学習に取り組むことができるような国・地域を選択する。
- 自分が興味のある国・地域を一つ選択して応援動画を視聴し、そこから調べ学習を行う活動も考えられる。
- 基本的な情報は教師から提示することで、児童が興味・関心に応じて調べ学習をすすめられる時間を確保するようにする。
- 日本との比較や関わりについてまとめさせることで、自分たちの生活と関連させて考えられるようにする。

まとめ

調べたことを発表し、友達と共有する。

もう一度ボリビアの応援動画を視聴し、応援の練習をする。感想をワークシートに書く。

- 調べたことについてより深く考えるために、思ったことや考えたことを発表させたり、自分の言葉でまとめさせたりするようにする。
- 「おもてなし」のためには、相手のことを知る事が大切であることを伝えることで、他者理解の大切さに気付かせる。

● 日本の応援の様子から 思ったこと、感じたこと

● () の応援は

● () について調べよう



★世界地図(その国・地域の場所に印をつける)

正式名称

首都

人口

面積

日本は人口1億2,680人(2017年)、面積377,900km²だよ!

● 調べたこと (食べ物、観光名所、スポーツ、日本との関わり等)

● 学習感想 (調べて思ったこと、考えたこと、調べる前と後での応援したときの違い等)